2Pp-2

# 下着の着用に関わる要因の検討（第１報）―― 着用意識 ――

○名古屋女大短大　原田妙子　　名古屋女大家政　石原久代
名古屋女子文化短大　鈴木妃美子

目的　下着メーカーにより新製品が開発され，通信販売においても下着を主軸に扱った会社も出現し，最近ではテレビのＣＭやポスター等により，次々と紹介されている。しかし，それらの情報は一方的に提供されるものが多く，この多様化した下着が果たして消費者にとって正しく理解された上で着用されているかは疑問である。そのような中でここ数年，下着に関する研究はいくつか報告されているが，洋服の着装状態との関係を追求したものは少ない。そこで本研究ではまず第１報として，女子大生を対象に，下着の着用と被服着装との関係を探るために，着用状況や意識などに関する調査を行い検討した。

方法　女子大生 270名を対象に集合調査法により，着用目的，購入・着用時のポイントなどを含む12項目についてアンケートを行った。実施時期は，1993年11月である。

結果　アンケートの結果，下着を着ける目的として，ショーツ，ブラジャーは習慣でと回答されたものが最も多かったが，ブラジャー及びガードルは整容目的もあげられているまた，スリップ，キャミソール，ペチコート等ランジェリー類は，汗や汚れの吸収の他に洋服のすべりがあげられ，ペチコートについては，下着の線がひびかないためという回答も多かった。次に洋服に合わせて下着を選ぶと答えた人は約半数で，中でも特に色を合わせる人が最も多いといえる。なおランジェリー類は，形状についても洋服に合わせると答えている。服種についてみると，生地，色共に薄いブラウスとフィットしたパンツを着用した時に65％以上の人がいつも洋服に合わせて下着を選んでおり，逆に生地が厚く色が濃いセーターと膝丈以上のフレアースカートの時は25％以上が全く考えないと答えている。